

第32期第3回京都市社会教育委員会議の模様を マナビィがレポート！



平成28年3月17日（木）午前10時～12時，京都市生涯学習総合センター（京都アスニー）で，第32期京都市社会教育委員会議の第3回目となる会議が開かれました。
会議の模様をわたくしマナビィがレポートします！

出席委員（17名のうち13名）

五十音順

井上 満郎 委員，大八木 淳史 委員，齊藤 修 委員，佐伯 久子 委員，白井 皓大 委員，
新家 忠弘 委員，鈴鹿 可奈子 委員，園部 晋吾 委員，西脇 悦子 委員，橋元 信一 委員，
森 清顕 委員，安成 哲三 委員，吉川 左紀子 委員

■ 今回初めて出席された第32期委員の自己紹介



○ 鈴鹿 可奈子 委員（株式会社聖護院ハツ橋総本店専務取締役）

前期に引き続き委員を務めさせていただくことになりました。

家業は聖護院ハツ橋総本店という会社を経営しており，教育に携わっているわけではありませんが，一市民の立場から気づいたことをお話しできればと思っています。

鈴鹿委員は，学校運営協議会や京都市次代の左京まちづくり会議などの委員を歴任されているほか，2019年に京都市での開催が決まった「世界博物館大会」の誘致活動に参加されるなど，多方面で御活躍されています！



■ 開会〔井上議長〕

■ 議事1 平成28年度「指定都市社会教育委員連絡協議会」の出席者について

（事務局から）

「指定都市社会教育委員連絡協議会」は，全国20の政令指定都市の社会教育委員が様々な議題についての協議，情報交換を行う場として毎年開催されています。平成28年度は5月27日（金）に，神奈川県相模原市にて開催されます。

○ 井上 満郎 議長（京都市歴史資料館長，京都市埋蔵文化財研究所長，京都産業大学名誉教授）

白井 皓大 委員から出席のお申し出をいただきました。白井委員，よろしくお願いします。

■ 議事2 京都市生涯学習総合センターと京都市図書館の取組について

（事務局から）

京都市では，市から委託を受けた公益財団法人京都市生涯学習振興財団が，京都市生涯学習総合センター（通称「京都アスニー」）と京都市図書館における事業を実施しています。

生涯学習総合センター事業の概要

- ・ 京都アスニーと分館（アスニー山科）の2館で事業を展開しており，平成26年度の事業参加者数は，2館合わせて約18万人でした。
- ・ 事業は，京都市受託事業と財団主催事業とに分かれ，基本的に前者は無料，後者は子ども対象の事業を除き有料としています。

京都市受託事業としては、

「ゴールデン・エイジ・アカデミー」

（京都の歴史・文化・文学・伝統芸能をはじめとする様々な分野の専門家による講演会）、
「京都市平安京創生館」の運営（平安京の町並みの復元模型などを展示）、
「古典の祭典」（11月1日「古典の日」を中心に多くの市民が気軽に古典に親しめるイベント）
の開催などがあります。

財団主催事業には、

「アスニーセミナー」（様々なテーマについてより専門的に学ぶ教養講座）、

「アスニーアトリエ」（第一線で活躍する講師の指導のもと、基礎からしっかり学べる実技講座）、

「アスニーコーラス」

「アスニーコンサート」（1回820円でプロの演奏を気軽に楽しめるコンサート）

「アスニー文化祭」「アスニー山科文化祭」（アスニー利用団体による学習成果発表の場）

などがあります。

- 貸館事業では、教室形式の研修室や和室などの施設を備え、生涯学習に係る自主的な学習活動の場を提供しています。

また、隣接する中央図書館には自習室がないため、新たなサービスとして、平成27年度後期から貸館事業における空き室を利用し、試行的に「自習室」を開設してきましたが、利用者から継続の要望が多いため、平成28年度についても取組を継続する予定です。

- 情報発信の取組では、生涯学習の拠点施設として市民のニーズに合わせた学習情報を提供できるよう、京都アスニーの2階に「生涯学習情報コーナー」を設け、京都市及び京都市近郊で実施される講演会や展覧会などの情報を常時300件程度紹介しています。

図書館事業の概要

- 京都市の図書館は、4つの中央図書館と14の地域図書館にこどもみらい館子育て図書館などを含め、計20館でサービスを行っており、全館合わせた蔵書冊数は189万冊、個人登録者（図書カード所有者）数は44万4千人、1日あたりの入館者数・貸出人数・貸出冊数は、それぞれ約1万4千人・約8千人・約2万5千冊です（平成26年度実績）。

「利便性向上による一層身近な図書館づくりを目的とする事業」と「読書活動推進事業」の2つ事業を柱に取組を進めています。

- 「利便性向上による一層身近な図書館づくりを目的とする事業」については、開館時間の拡大や隣接自治体との相互利用（平成28年度から宇治市・大津市との相互利用を開始）、移動図書館の巡回などを行っているほか、ホームページ「京・ライブラリーネット」を充実させ、自宅からの貸出予約や電子メールでのレファレンス（参考調査）サービスに対応しています。

また、「京都大百科事典的図書館」をコンセプトに設置された右京中央図書館では、精力的に郷土資料の収集・保存に努め、市民の高度な調べものに的確に対応できるよう、職員研修も行っています。

- 「読書活動推進事業」については、特に読書離れが指摘されている中高生への対応として、各館に「ティーンズ・コーナー」を設けるほか、1人5分でお薦めの本を紹介し、投票で最も読みたい本を選ぶビブリオバトルなどの取組を継続しています。

また、教育委員会と連携し、学校図書館支援員の研修に講師として図書館司書を派遣するなど、学校図書館充実に向けた支援も行っています。

平成28年度からは、乳幼児連れでも来館しやすい環境づくりに重点的に取り組む予定です。

○ 井上 満郎 議長

生涯学習総合センターのような施設は、人口の多寡に関わらず必要な施設ですので、地域間のバランスにも配慮しながら事業を進めていかなければなりません。こうした観点から、現在2館で展開されている事業を、拡大される構想はあるのでしょうか。

(事務局から)

現在のところ拡大の予定はありませんが、市内各所には、当センターと同種の事業を行っている文化施設がありますので、それらも併せて総合的に活用いただければと考えています。

○ 西脇 悦子 副議長（京都市地域女性連合会相談役）

生涯学習総合センターができるまでは、私たち女性会の活動拠点がなく、研修や取組を行うことが困難でした。センターの開館により活動の拠点ができましたが、現在ではそれにとどまらず、幅広い年齢層の方が利用する市民の生涯学習の拠点になっており、図書館事業も含め、大変充実していると感じています。今後は、より一層幅広い分野の事業展開を期待していますし、また、運営に高齢者の力をもっと活用してはどうかと考えています。



○ 井上 満郎 議長



京都市や生涯学習振興財団が全ての社会教育を担うことはできません。大学など、様々な既存施設とのネットワークづくりや、共存共生していくための棲み分けをうまく考えながら、京都市全体の社会教育活動を展開していくことが一番良いのではないのでしょうか。

また、センターという場所での事業実施も大事ですが、地域や小中学校などへの「出前」講義という形で取組の幅を広げることも必要です。今後事業を展開する際は、時代の変化を慎重に見極めながら進めていくことが重要だと考えます。

○ 安成 哲三 委員（総合地球環境学研究所所長）

活発な事業を展開しておられ、素晴らしいと思います。

189万冊という大量の図書を所蔵されているということは、図書の購入費だけでも巨額になると思うのですが、その経費節減の一助にもなる寄贈図書の受付などはされているのでしょうか。



(事務局から)

現在、多くの市民の皆様から図書を寄贈いただいています。ベストセラー本などは、予約待ちの状態が長期にわたることもあります。そのような話題本についても寄贈が進んでおり、私どもとしましては、大変助けられています。

○ 白井 皓大 委員（市民公募委員）

現状の課題と今後の取組方針について教えていただきたいです。

また、大学生が参加できる講座が少ないと感じたのですが、この点についてどのようにお考えでしょうか。



（事務局から）

生涯学習総合センター事業については、利用者に年齢的な偏りがあり、今後、いかに若い世代へ取組を広げていけるかが課題となっています。講座については、大学生などに対象を特化するというよりも、大学の取組とも連携しつつ、幅広く参加いただけるような事業の展開を考えています。

図書館事業については、中高生の読書離れが大きな課題となっており、課題解決に向けて学校との連携強化を図っていきたいと考えています。

○ 吉川 左紀子 委員（京都大学こころの未来研究センター教授・センター長）



中高生の読書離れについてですが、この年代の子どもたちは、いつの時代でも、あまり本を読みたがらないのではないかと思います。しかし、個人差はありますが、子どもたちにも本に出会いたくなる時期が必ずやってきます。大事なことは、その時に周囲に本に出会うチャンスがたくさん存在していることです。

京都には図書館だけでなく、品揃え豊富な書店が非常に多くありますので、本に出会いたくなった時にすぐに出会うことができ、本を好きになれる環境を京都のまち全体で整えておくことが必要なのではないのでしょうか。

○ 齊藤 修 委員（株式会社京都新聞ホールディングス顧問）



紙活字離れは急速に進んでいますが、それは、最近の若者が長文を読まなくなっているからです。新聞記事でさえ、コンパクトに書かなければならない傾向にあります。しかし、物事を深く掘り下げて書こうとすると長文になります。長文を避け、コンパクトな文章を気軽に読むという方向に進めば、物事についてあまり深く考えないようにしてしまうので、やはり分厚い本をたくさん読むことが大事になってきます。

私は、学校の図書館ではなく公立の図書館に初めて足を運んだとき、少し大人になった気がしたのを覚えています。若い世代、特に中高生には、大人への登竜門として図書館に足を運んでもらいたいですし、図書館側も彼らに来てもらえるよう努力していただきたいです。

次に、「京都市平安京創生館」についてですが、現在展示されている平安京の模型が制作された当時は、平安時代から明治に至るまで、京都の重層的な歴史を学べるネットワークを構築しようという議論がありました。この施設で平安京について学んだら、次はこの大学で次の時代を学ぶというように、複数の施設をネットワーク化して学ぶといった方向性を検討していただくと、次の事業展開に向けた目標や取組方針が見えてくるのではないのでしょうか。

また、貸館事業の利用率が40%とありますが、少し低いように感じます。料金やPR不足、施設の構造など、考えられる原因は様々ですが、事務局ではどのように分析されていますか。

○ 佐伯 久子 委員（京都ユネスコ協会会員）

私も、女性会の活動でよく京都アスニーを利用していますが、思い通りに施設の予約が取れないことが多々あります。利用率の割に予約が取りにくいように感じるのですが、その点について、考えられる理由を教えてください。



（事務局から）

午前と午後だけで見れば、利用率は40%よりもかなり高いのですが、夜間の利用率が低いため、平均するとこの数値になります。また、予約は、毎月初日に半年後までの分を受け付け、その後は

空き状況により随時受け付けていますが、平日の午前・午後に利用が集中することや、「アスニーセミナー」などの当館の主催事業でも施設を使用することから、御希望に沿えない場合もあります。

今後は、PRの強化や提供できる部屋の形態を工夫するなど、夜間の利用率向上、ひいては、市民の生涯学習の拠点にふさわしい事業展開ができるよう努めてまいります。

○ 大八木 淳史 委員（元ラグビー日本代表、学校法人芦屋学園理事長）

芦屋学園には、中学校・高校、短期大学、大学のそれぞれに図書館がありますが、図書館司書が書店のようにお薦めの本のポップを作るなどの工夫をしていることもあり、中高生の利用率は案外高いです。一方で、短期大学や大学の場合は、ファッション雑誌を見ている学生は見かけても、長編文学を読んでいる学生はほとんどいません。スマートフォンなどで簡単に調べものができる時代になり、図書館の定義がどんどん変わってきていると感じています。スマホで素早く調べものが終われば時間が余ってきますので、これからの図書館は、その余った時間をいかに快適に過ごしてもらおうのかについても考えなければならないのではないのでしょうか。例えば、カフェを併設した複合施設にして、コーヒーを持ってゆっくりと本を読める場所にするなど、今までとは違う図書館づくりが必要です。



また、最近、卓球など屋内の小さなスペースでもできるスポーツがブームになっていますので、図書館やセンターにそのような貸スペースを併設すれば、夜間も含めた利用率向上にもつながるのではないかと思います。

○ 森 清頭 委員（清水寺執事補、上智大学グリーンケア研究所非常勤講師）



大学の研究所に所属していた頃、後輩たちに図書館の使い方を基本的なことから教えなければならぬということがありました。学校で図書館の使い方について教えていただくなど、子どもの頃から図書館に慣れ親しんでおくことが大事なのではないのでしょうか。

また、本の中には、紙の色や厚さ、活字のフォントなどにこだわり、印刷や製本など、装丁に様々な分野の専門家たちが関わって作られているものもあります。「本を読みましょう」ということだけでなく、本そのものが一つの芸術的作品でもあるということ、子どもたちに伝えることができると考えています。

加えて、子どもや赤ちゃんと一緒に親子で図書館に行けるという取組は、小さい頃から文化に触れるチャンスをいただけるということであり、保護者としては嬉しく思っています。

○ 園部 晋吾 委員（NPO 法人日本料理アカデミー地域食育委員会委員長、山ばな平八茶屋若主人）



私自身はあまり図書館を利用したことがありません。その理由は、まず、私の現在の生活においては、インターネットで瞬時に情報が手に入ることもあり、図書館でゆっくり本を探すという時間の使い方ができないということです。次に、図書館で借りた本は返却しなければならず、内容が記憶でしか残らないので、本は購入して手元に残しておきたいと考えるからです。

また、先ほどベストセラー本の話がありましたが、そのような本を図書館が購入することには少し疑問を感じます。高価で市民が普段買わないような本や、将来にわたって残していく価値のある本については、図書館で所蔵し、多くの人に読んでもらうことが大事です。しかし、市民が日常生活の中で買えるような本まで図書館が所蔵することは、図書の需要が書店などではなく図書館に向くことにもつながりますし、図書館の在り方や果たすべき役割が今後変わってくるのではないかと考えています。

○ 井上 満郎 議長

図書館で図書を購入する際は、利用者からのアンケート結果などを参考されていると思いますが、そこには必ずその時々の人気図書が挙がってきます。したがって、市民のニーズと図書館で所蔵する図書としての重要性、この二つの側面の兼ね合いを絶えず考えなければなりません。

○ 橋元 信一 委員（日本労働組合総連合会京都府連合会会長）



お示しいただいたパンフレット『京^{きょう}図^ずものがたり』では、「0歳からの図書館」という特集が掲載されていますが、育児休暇取得中の方で図書館のこのような取組を知っている方は少ないのではないのでしょうか。私たちの組織活動などを通して、こうした取組を周知できれば、育児休暇中の方のよりよい支援につながるのではないかと考えています。

○ 井上 満郎 議長

今までですとこうした施設は「来てもらう」、さらに言えば「見せてやる」というような認識が強かったように思います。しかし、これからは、施設の方から「来てください」と市民に働きかけるというところまで踏み込んで考えなければならないと思います。

■ 報告-1 「京^{みやこ}まなびミーティング」について (事務局から)

- ・ 去る2月12日、京都アスニーの人気講座「ゴールデン・エイジ・アカデミー」とタイアップし、森清頭委員に「清水 観音桜」と題した御講演をいただきました。当日は、約700名の市民の方々が熱心に聴き入っておられました。
- ・ また、昨年12月に井上章一委員、森清頭委員の御協力のもと開催しました「生涯学習市民フォーラム」については、当日の様子をフォーラム通信にまとめ、加盟団体など関係各所に送らせていただきました。



「生涯学習市民フォーラム」総会・シンポジウムの内容は、[こちら](#)からご覧いただけます。

○ 森 清頭 委員

16世紀初頭に描かれ、清水寺に伝わっている「清水寺参詣曼陀羅^{きよみずでらさんけいまんだら}」の高精細デジタル画像を、一般の方を対象にした講演会では初めて御紹介しました。高精細画像と同時に撮影した赤外線画像の中にも新発見が数点あり、講演の中では、そのことも合わせてお話ししました。皆さんメモを取りながら熱心に聴いていただいていたようです。皆さんに、500年前の人々の様相が少しでも伝わっていただければ幸いです。

■ 報告-2 中学生による「京都・観光文化検定試験3級」チャレンジ事業の実施結果について (事務局から)

- ・ 京都市では、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、京都はぐくみ憲章の理念のもと、「歴史都市・京都」の魅力を世界に発信するとともに、国内外から訪れる方々に、京都の奥深い魅力について、自ら語り、おもてなしを実践できる子どもたちの育成を目指しています。

- これまで10年間にわたって毎年、市立小学生（高学年）全員が取り組んでいる「ジュニア京都検定」を通して深めた興味関心を、さらに伸ばし高めていくため、京都商工会議所と連携し、「京都・観光文化検定3級」に、希望する市立中学生が無償でチャレンジする事業を平成26年度に開始しました。
- 取組2年目となる今年度は、事業趣旨に賛同いただいたタクシー事業者2社（エムケイ・彌榮自動車）から中学生・高校生の無償受験を支援する寄付金や公式テキストの寄付をいただきました。
- 試験は、昨年12月13日に京都商工会議所会場や自校実施会場などで、公立・私立学校垣根を越え、京都市内在住・在学の中高校生643名が受験し、中学生27名、高校生34名が合格し、昨年度（中学生のみを対象）より受験者数、合格率ともに着実に伸びています。
- また、合格という結果も大事ですが、自ら学ぼうとする意欲を持ってもらうことが重要ですので、事前学習のための講習会を初めて企画し、エムケイの観光ドライバーを講師に迎え、開催校のねらいや要望を取り入れながら実施しました。
- 次年度以降も、京都商工会議所と連携を密にし、また、事業者からの支援も活用し、さらに、受験者数増加、受験意欲の向上につながるよう改善を加えながら、継続して取り組んでまいります。

■ 報告-3 平成28年度「教育予算（案）の概要」について

（事務局から）

「教育予算（案）の概要」については[こちら](#)を御覧ください。

■ 報告-4 平成28年度「学校教育の重点」について

（事務局から）

京都市の学校教育の方針である「学校教育の重点」について、事務局から説明がありました。

■ 主催事業 及び 刊行物等の案内・説明

■ 閉会 [井上議長]

■ 閉会挨拶

中村公紀 理事・生涯学習部長から挨拶がありました。

